

茶

月		成木園の管理	更新園の管理	幼木園の管理	病害虫関係	
					防除時期	対象病害虫
3	上 中 下	春肥の施用を行い、中耕する。 化粧ならし、または春整枝を行う。 凍霜害の防止(ネット等の使用)		苗木の定植: 株元に山草、ワラ等を用い 乾燥を防止する。	一番茶萌芽期	カンザワハダニ
4	上	芽出肥の施用を行い、除草、浅耕を行う。 防霜対策(防霜ファン、ネット)を行う。		仕立: 定植後の徒長枝をせん枝し、 分枝数の増加、株張りを良くし 早期成園化に努める。		カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ
5	上 下	一番茶の摘採を行う。 機械摘み: 4~5葉程度のものを(古葉が混入しない ように)一枚残して摘む。 夏肥(一番茶のお礼肥)の施用を行う。	更新・整枝: 一番茶摘採後、更新・製枝を行う。 (下図参照) 中切更新: 樹勢が弱い場合には、秋までその まま伸ばし、秋整枝時に刈り落とし、 翌年中切更新を行う。	追肥	一番茶摘採後	炭そ病 もち病
6	上 中	除草とともに中耕する。 二番茶の摘採および整枝を行う。 (若芽摘みに心がける) 二番茶の摘採を行わない園においても 必ず整枝を行う。		挿し木(6月中下旬): 新鞘の硬化した穂木を3節2 葉で挿す。 挿し木後の活着促進を兼ね 干害防止のため、敷きワラ等 を充分に行う。		クワシロカイガラムシ チャドゲコナジラミ
7	上 中	除草 干害防止: 敷きワラ、敷き草を十分に行う。灌水を行う。 阿波晩茶用の茶葉摘採	再整枝: 更新園では、更新後の再整枝を行う。 (樹勢が弱い場合には再整枝を行わ ず、秋までそのまま伸ばす)		二番茶摘採後	チャノコカクモンハマキ チャノミドリヒメヨコバイ 炭そ病 もち病
8	中	土壌改良: 苦土石灰を10 a当り、100~150kg施す。 完熟堆肥を施用する。 阿波晩茶の桶出し・天日乾燥				輪斑病 網もち病 チャドゲコナジラミ
9	上	基肥施用: 基肥を施用し、中耕して土とよく混ぜる。 (2~3年に一回は深耕するのが望ましい。)		施肥	基肥施用直後	チャハマキ チャノコカクモンハマキ チャノミドリヒメヨコバイ 炭そ病 もち病
10	上 中	秋整枝: 平均気温18℃の頃、秋整枝を行う。 敷草等:10 a当り1000kg以上の山草 または稲ワラを株元に敷き込む。	秋整枝: 平均気温18℃の頃、 成木園同様、秋整枝を行う。		秋整枝直後	クワシロカイガラムシ カンザワハダニ チャドゲコナジラミ
11		防寒、防風対策等				

◎施肥基準 (徳島県施肥基準による)

施肥と時期	施肥例	窒素	リン酸	カリ
基肥 (9月上旬)	油かす(5-3-1) 80kg あわみどり(12-7-9) 80kg ようりん(0-20-0) 40kg	15	15	8
春肥 (3月上旬)	あわみどり(12-7-9) 140kg	16	10	12
芽出肥(春肥追肥) (4月上旬)	硫安(21-0-0) 40kg	8		
夏肥 (5月下旬)	硫安(21-0-0) 50kg 硫酸加里(0-0-50) 20kg	11		9
合計		50	25	29

◎茶園の更新方法

- 更新の時期
一番茶摘採後なるべく早く。
- 更新後の注意
新芽に病害虫が発生しやすいので注意し、発生した場合は早めの防除を心がける。

更新の種類	剪枝位置	更新効果
①浅刈り	摘採面より3~4cm下	2年程度
②深刈り	摘採面より15~20cm下	3年程度
③中切り	地上部より30~50cmの高さ	5年程度

※中切り更新5年後を目途に深刈りを行い
その3年後に再び、中切りを行う。
その後、これを繰り返す。(下図参照)

◎茶樹の更新方法

